

# 『協同労働』の理念を力に 歩み続けてきた子どもたちとの居場所（サードプレイス）づくり



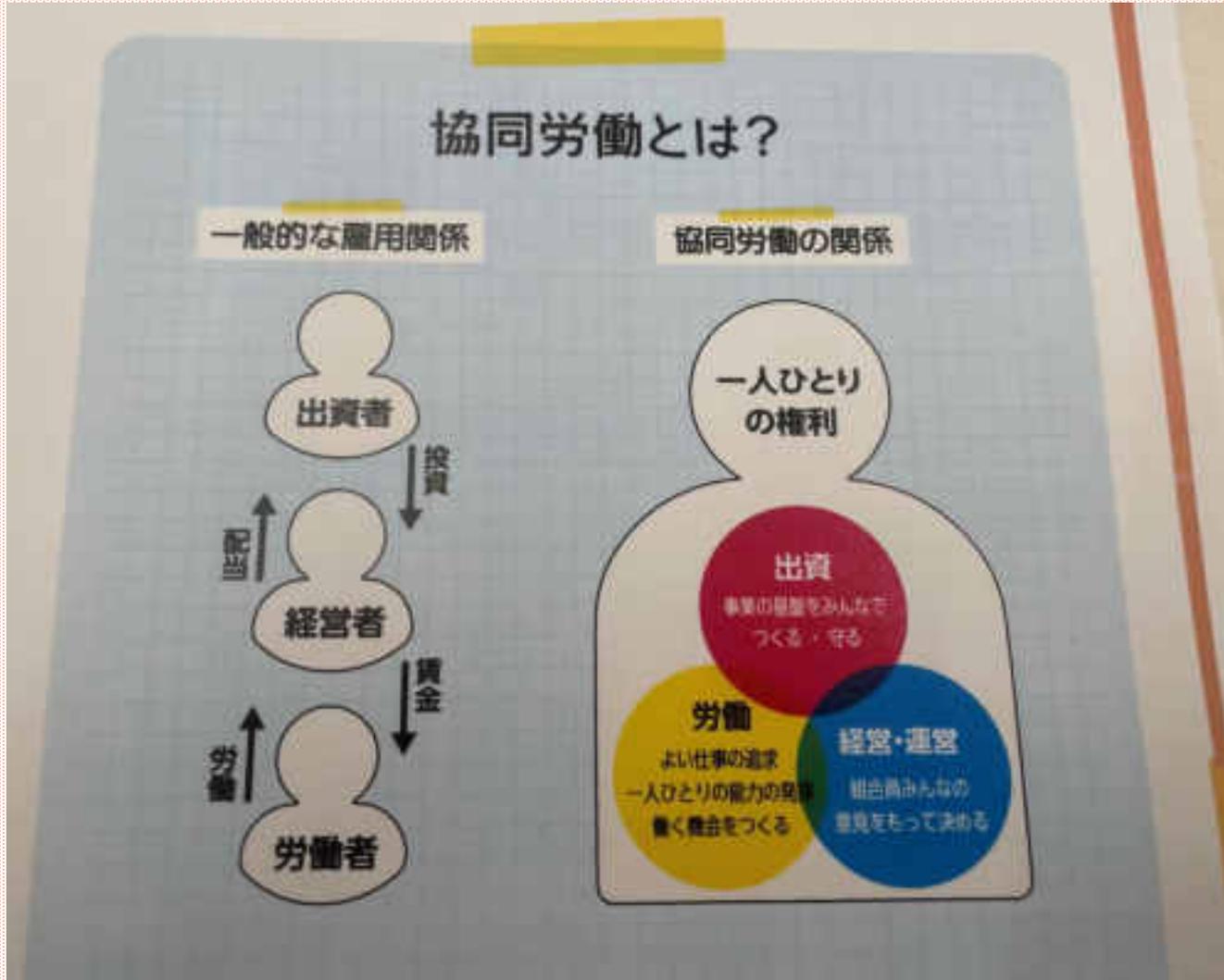
ワーカーズコープ  
センター事業団  
南東北事業本部  
仙台地域福祉  
事業所けやきの杜

瀬戸 理音

# 仙台地域福祉事業所けやきの杜について

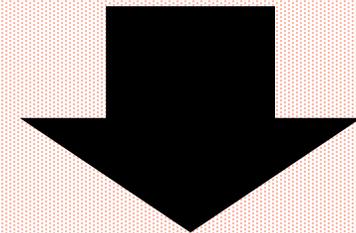
- ・事業所設立：**2008年4月開所**。今年で14年目。  
主に仙台市指定管理事業を運営。
- ・事業内容：児童館**8館**、子育てひろば**1館**、院内保育所**1**か所、  
中高生の居場所の運営。**【既存の事業+社会連帯活動】**
- ・組合員数：**109名**/ 就労者数**145名**（2022年11月現在）
- ・事業高：**4億1260万円**（令和4年度）
- ・出資金総額：**3888万8千円**（1口5万、2か月出資、増資）
- ・【子どもたちをまん中に 地域みんながふれあう あったか交流広場】が軸。
- ・各現場毎月の経営会議と団会議、月に1回現場責任者会議、主任会議、経理主任会議など。（組合員同士の話し合いを大事にする）

# けやき流の協同労働とは？



## 大事にしていることは『話し合って決める』

- ・仕事の方針、新規事業の提案や挑戦にむけて
- ・給料や処遇（働き方）  
人事異動
- ・事業所内での役職や  
役割の創出



自由であり、必要だと思ったことは何でも挑戦できる  
自分たちの雇用（働き方）も自分たちで決めれる  
自分たちで創り上げる「充実感」

# 仙台市指定管理事業について

1998年3月：【特定非営利活動促進法】の制定  
2003年9月2日【指定管理者制度】施行



**仙台市では、2004年4月より指定管理者制度開始。**



**2008年4月「仙台市連坊小路マイスクール児童館」を運営開始**  
その後毎年指定管理者制度公募に挑戦し、事業拡大を経てきた。  
**2022年11月現在、指定管理事業9現場（全11現場）**

※市内児童館113館（すべて指定管理）  
管理運営団体は12団体。

# 仙台地域福祉事業所けやきの杜の歴史

- ・連坊小路マイスクール児童館（2008年4月1日～）
- ・子育てふれあいプラザ長町南（2009年10月28日～）
- ・荒町児童館（2010年4月1日～）
- ・国見児童館、大野田児童館（2011年4月1日～）
- ・金剛沢児童館、東長町児童館（2012年4月1日～）
- ・長町病院院内保育所「おひさまルーム」（2013年4月1日～）
- ・鶴ヶ谷東マイスクール児童館（2014年4月1日～）
- ・民間学童クラブ「れいんぼうはうす」（2015年4月～2018年3月）
- ・東宮城野マイスクール児童館（2017年4月1日～）
- ・「みんなのBASE」（中高生居場所）（2021年8月1日～）

# 主な事業内容

## 児童館

子育て家庭支援事業

児童健全育成事業

放課後児童健全育成事業

地域交流推進事業

## のびすく

(子育てひろば)

子育てひろば事業

一時預かり託児事業

相談支援事業

## おひさまルーム

(院内保育所)

小規模保育事業

挑 2  
戦 0  
し 2  
た 2  
取 年  
組 度  
み



# 「課題を大事にして、できる方法で挑戦する。」



**金剛沢児童館**

西多賀まちづくり「ライトアップ」



**鶴ヶ谷東マイスクール児童館**

空き店舗マルシェへの出張児童館



**大野田児童館**

地域へモルックをもって出張児童館



**連坊小路マイスクール児童館**

連坊商興会70周年記念「竹あかり」



**荒町児童館**

回文団扇から多方面へのひろがり



**東宮城野マイスクール児童館**

商業地域への出張児童館



**のびすく長町南**

休館日を利用したひろばづくり



**おひさまルーム**

園外での居場所「ふらっと塾」



### 国見児童館

東北福祉大学「互いに育てる」



### SDGsフェスタ

SDGsは身近にあること  
遊びで学ぶ



### 東長町児童館

ございん茶屋で地域へ  
コンポストで繋がりづくりを



### 南東北コンポスト部

コンポストを地域づくりの  
ツールへ



### 田んぼの楽校

#### もりの会

五感を育てる自然体験活動



### フードバンク活動

けやきの全現場に  
フードBOX設置



### まちづくりサロン全3回

フードロス・コンポスト・地域課題



### 運動遊びラボチーム

運動遊びをもって社会連帯  
活動へ



## 課題から誕生した 『みんなのBASE』



# なぜ立ち上げたのか？

○健全育成事業に携わり14年。出会ってきた数々の「困難さ」

学校に行かない選択、いじめによる自死件数、ヤングケアラー、機能不全家族  
子どもたちを取り巻く環境、困難な状況と向き合ってきた。

○コロナ禍の中で、児童館にこれない子どもたちの「居場所の必要性」

○組合員である前に「親」である私たち。ここを通り過ぎていいのか??

○目の前にいる子どもたちの「その時」に今から備えるため

○「指定管理事業」の枠をこえた「しくみ」の前例をつくる必要あり?

○「こども家庭庁」創設を意識、安全安心の居場所、体験体感の場と包摂できる場所。

**「最善の利益」「子どもの権利条約」「子どもアドボカシー」「子どもまんなか」**



# 立ち上げてからの「今」

- ・開所から10月より本格始動。利用者ゼロから、月利用平均300人を超えるように。
- ・午前中は子育てママパパ、プレママたち。午後は小学生と中学生のごちゃまぜ状態。
- ・火、水、土日はみんなのBASE。それ以外は「フードバンク仙台」の活動日。  
宮城南エリアの現場にフードBOX設置し、フードロスや生活困窮など社会的課題に共にむかう。
- ・地域コミュニティづくりのツールとして「だがしや BASE」を一角ではじめる。
- ・高校や大学のフィールドワークの場所として。
- ・「学校に行かないという選択」をした子どもたちが午前中から利用。保護者からの相談もあり。
- ・ママたちの「おもいつきサロン」の開催場所に。➡社会へ出るかもしれないきっかけづくりへ。
- ・やりたいことは「こども企画書」で。企画提案から開催までを子どもたち自らが行えるように。
- ・待ち合わせや雨宿り場所にも。
- ・他団体とのコラボで「まちづくりサロン」開催。協同労働について企業講話をする機会に。

# みえてきたこと

- BASEに来ることが彼らにとって「自分の意思」そのもの。  
→行く場所がある、あそこに行けば誰かがいるという安心感=**居場所**
- 小さな社会の縮図。いろいろな人がいるからこそ「受容する」練習をここでしている。
- ゆっくりと、「やりたいこと」を一緒に追える居場所が必要。
- 「支援してあげる」と近づく大人に対しては、拒否反応をしめす。
- 彼らの思いを「代弁できる」オトナの存在が必要。
- **オトナたちにとっても「心のBASE」であるということ。**

# BASEの未来① 『多様なスタイル』で学べる場所へ



## ホームベースド・エデュケーション

家を拠点にした、子どもに合った学びをすること。  
興味関心やそれぞれのペースに合わせた学び。



今までつながってきたネットワークと  
多岐にわたる事業を展開している全国組織  
ワーカーズにしかできない強みに着目！！

# BASEで想定される「学び場」の可能性

- ・ 児童館、保育所、のびすく
- ・ フードバンク仙台
- ・ コミュニティスクールの取り組み
- ・ 商店街（キャラの濃い店主たち）
- ・ 近隣大学
- ・ アートに特化した他団体
- ・ 演劇に特化した他団体
- ・ 防災士
- ・ アナウンサー
- ・ 理科実験おじさん
- ・ 性教育ができる他団体
- ・ 不登校支援をしている他団体
- ・ フリースクール
- ・ 市議会議員
- ・ プレーパークをやっている他団体
- ・ 武道（柔道、剣道、柔術）
- ・ サッカーチーム



ワーカーズコープ  
全事業所

オンラインなら  
全国とつながる

# こどもだけじゃない。おとなも。

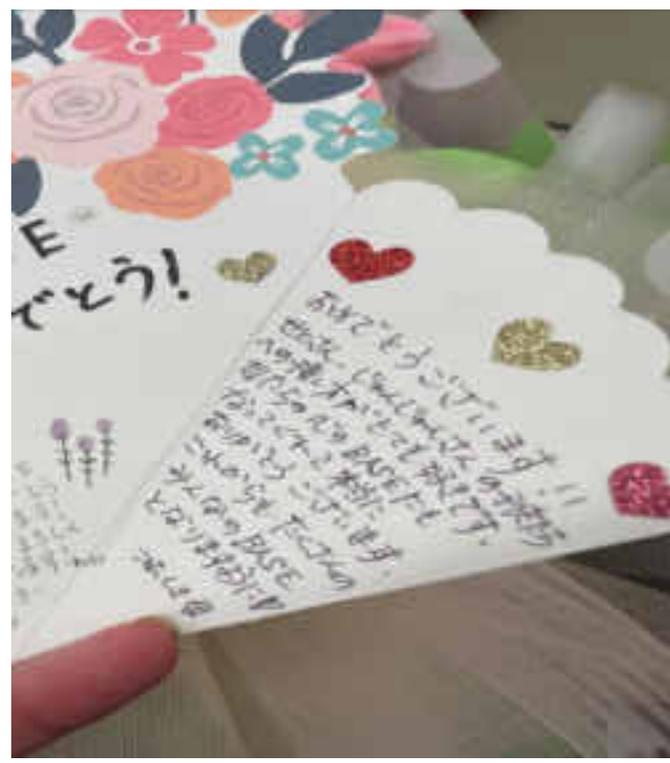
- 迷える母たち。子育て、自分のこれから。  
「おかれた環境」で人生が変化していく女性たち。
- 『学ぶ機会をもちたい。』
- 日本における「女性の地位」はまだ低い。  
孤独、焦り、不安、見通しがたたない将来。  
わたしも『当事者』だからこそわかる苦悩。

**自分たちはどう生きていきたいのか。**

『役に立ちたい、なにかやりたい、チャンスがほしい』

**母たち自身のこれからの『生き方』にも伴走していくことが  
そのまま子どもたちのケアにもつながるのではないか？**

# BASEの未来② オトナたちが『出会える』場所へ





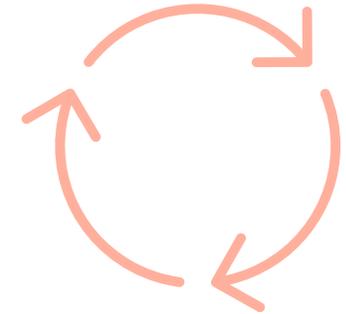
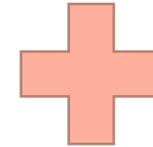
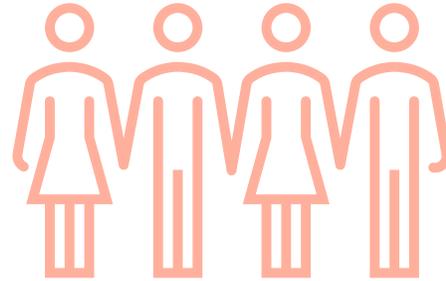
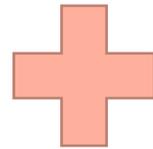
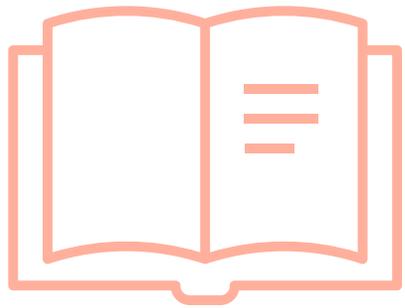
「小さな声」は  
「ひろがり」という  
花を咲かせる  
「種」である。



人づくりは  
仕事づくりに  
つながる

# 『けやき流 人財育成スタイル』

共に学び、互いの取り組みに活かす。よい刺激は必ず相乗効果になっていく。



『学ぶチャンス』を逃がさない

教育研修の場をもつこと  
何でも参加してみる  
子育て以外でも学ぶ  
視野を広げる努力をする

「得意」を「役割」にする

ひとりひとりの特性や得意を  
役割にしていくことは  
モチベーションアップへ

『スキルを循環』させる

それぞれがもっているスキルを  
事業所内でどう循環させるか  
他事業所へも循環していく

# 5年後、10年後に向かって

- ・それぞれが感じた課題から「仕事をひろげること」。母たちとの「社会連帯活動」へ。
- ・「ホームベースド・エデュケーション」を子どもたちの声をききながら環境をつくっていく。
- ・他団体とのネットワークづくりを。増えた小さな拠点は「前例」となっていく。  
自分たちの取り組みをアウトリーチしていく。やがて「エビデンス」に。
- ・変わらず、子どもたちやその背景にいる大人たちの「かかりつけ医的な存在」であること。
  - ・「思い付き」と「柔軟な感覚」を忘れず、取り入れる事をおそれない。動き続ける。

**フットワークを軽くし、どんどん「外」にでていく。**

**目の前の仕事だけに「巣籠らない」**

**これからも組合員たちみんなで、話し合っ、悩んで、乗り越えていきます。**



MINNA\_NO\_BASE

ご清聴ありがとうございました。

東北ブロック労働者協同組合法周知フォーラム